

JARL

香川クラブ報

№ 213 昭和59年 8 月15日



社団法人 日本アマチュア無線連盟香川クラブ

定例ミーティング御案内

日 時 59年9月9日(日) 9時30分 ~

場 所 高松市民文化センター 第5集会室

さきに年度行事計画では、9月2日を予定していましたが、諸般の都合で上記のとおり9月9日に変更になりましたので、お間違いのないようにしてください。

8月7日は立秋、残暑厳しきおりからと今はいってありますが、9月ともなれば、少しは涼しくなることでしょう。各局のお顔が拝見できるのを楽しみにしております。

クラブ会費未納の方は、ぜひこの機会にお納めください。

趣味協会からの御案内

親睦レクリエーション

9 / 16 (日) 9:00 発 114 BK 本店前

19:00 着 高 松 市 内

行 先 大谷焼窯元 - 霊山寺 - ドイツ館 - 瑞巖寺 - 鳴門公園

(バスで巡ります)

会 費 大人 @ 4,000 子供 @ 2,000 昼食付

(注. クラブで会費の一部を負担します。)

申込〆切 9月1日までにJA5AHMへお申出ください。

◎ さきに当クラブでも、フィールド・ミーティングでこのコースを巡りましたが、参加できなかった方はこの機会にぜひどうぞ。

海から見た瀬戸内海

坂出港を10時に出航した千当海運の味野行き渡回船が沙彌島を過ぎ、三ツ子島に近づく頃から番の州陸上部の橋脚、与島の橋脚工事、工事専用の特殊船等一連の架橋工事現場が遠望できるようになる。

乗船までは初夏といった暑さであったが、甲板を吹き抜ける潮風が半袖シャツでは冷たく寒ささえ感じる。

高松を発つ頃はかなり濃い霧であったが、その霧も消え渡回船は架橋工事現場に並行して進む。船からの眺めでは橋というより巨大なビルが建設されており、橋のイメージはわからない。

橋の構想は明治22年に提言されていたと聞いている。先覚者の提言以来実に80年後の昭和45年、本四連絡公団が発足しようやく現実のものとして建設の途を歩み始め、四国と本土を結ぶ「かけ橋」が今すぐそこに……。

橋は道路・鉄道併用で、道路は自動車専用道路で片側2車線、設計速度100キロとなっている。

現在本四間の交通輸送は殆ど船舶に依存しており、それも霧や風波など気象条件で大きな制約を受け、経済活動でも生活面においても大きな障害となっていたが、瀬戸大橋完成後は濃霧や風波に左右される不安もなくなり、いつでも思いついた時に発つことができ経済的向上はもちろんのこと、生活利便の改善に大きく寄与することになる。

昭和63年度の完成に向けて工事は順調に進んでいるとのことで、子供さんの夏休頃になると橋脚に橋桁が乗ったり、橋脚と橋脚の間にロープが張られ、まさに「かけ橋」の雄姿が眺められることだろう。

内海の多島美、架橋の雄大さ、休日に家族連れで遊ぶのによいコースです。
是非どうぞ。

(JA5KWF記)

(出席者 JA5UY -VP -AHM -KWF -WSZ)

===== J A R L 飯山レピータ (J R 5 W L)

運用開始される=====

さきにお知らせしました、みだしのレピータ局は、かねてから県内の J A R L 登録クラブ=5 クラブの有志を母体に着々準備が進められていましたが、去る 59 年 7 月 1 日(日) 10 時から、レピータ設置場所(香川県綾歌郡飯山町東坂元 3 1 4 7 三谷様方)において、稲毛 J A R L 四国地方本部長、天野レピータ管理団体代表、新名レピータ連絡責任者のほか、各クラブ代表者、また、来賓に髙トリオの志賀氏、髙電化センターの佐藤氏をお迎えして盛大に開局式が行われました。以下その模様をお知らせします。

開局式は J A 5 T F J の司会で、管理者として経過報告等天野氏のあいさつ、稲毛本部長あいさつのあと、来賓の志賀氏・佐藤氏お二方から祝辞をいただきました。続いて、天野氏・佐藤氏・三谷氏(設置場所の方)によるオープニングテープカットとなり、いよいよレピータ局のオープンです。新名氏によるレピータ本体への電源投入、早速レピータを介しての記念交信が行われ、待望のレピータ開局式を終了し正式運用を開始しました。

これに引き続き、式典参加者全員、場所を新名氏(J A 5 M I K)宅前の開局祝賀会場に移し、まず各氏から祝辞等をいただき、J A 5 A G 太田 O M の乾杯の音頭で祝賀パーティーが開かれました。各局の自己紹介、クラブ紹介と進めるうちに、地元綾歌クラブ各局の腕自慢になる“どじょう汁”がふるまわれ、ビールがまわる歌が出る。お祝い気分が一段と盛り上がる頃、机の上のハンデイレシー機から=J R 5 W L=の軽やかな C W が流れ早速にもレピータの運用が始まっていることを聞きながら、記念撮影で開局祝賀パーティーを終了しました。

最後になりましたが、レピータ局開局にお骨折り下さった各局、また当日会場等準備やお世話下さった方々に感謝すると共に、わが中讃に設置された当レピータの有効な活用を望む次第です。なお当日の参加者は 37 名でした。

※ 飯山レピータ(J R 5 W L) 439.56/434.56 M H Z 常時運用

(JARL情報第74号から)

◎ ラジコン・ヘリとアマチュア無線がコンビ

—— 勝山市(福井県)で災害救助に機動力を期待 ——

「九頭龍川左岸堤防に亀裂、決壊の恐れが」という想定で、福井県勝山市の総合防災訓練が6月30日行われ、市消防団、警察、市役所職員らとともに勝山アマチュア無線クラブの会員15名も参加した。

梅雨時にはめずらしい好天に恵まれたこの日、訓練会場の同市勝山橋付近に集まった参加者は約250名、土のう作りやクイ打ち、住民の避難誘導、負傷者の救出・手当て…と決められた担当どおりキビキビした動きを見せ、たのもしさを感じさせた。

勝山クラブの役割はもちろんアマチュア無線を使っての情報伝達や連絡。だがこの日とくに目を引いたのは、同クラブの会員で、ラジオコントロールフライヤーズ(奥越前のラジコン愛好者で結成)会長でもあるJA9XED所有のラジコンヘリコプター。重さ約5キロ、全長1.5m、コントロール範囲は上空約1キロ、雨などの悪天候でも飛べる高性能機。

当日は河原に陣取った同局が操縦して100m以上離れた勝山橋の上に通信筒を運んだり、細綱の先端を落として河原上と結び、太いロープにはりかえたり…。この場合にも目標の指示や落下地点の状況を知らせるのに無線が活躍していた。

アマチュア無線とラジコン機の組み合わせは、災害の場合だけでなく、急な増水で川の中州や島に釣り人などが取り残された場合にも威力を発揮しそう。これまでは、ロープ発射銃を遭難者の近くに撃ち込み、拡声器で指示していた。しかしヘリコプターを使えば、グンとスピードアツブする上に確実にロープを手渡せるし、無線なら拡声器と違って双方向で情報交換ができるとして、同市消防署では強力な助っ人として期待している。

(「福井新聞」6月29日、7月1日ほか)

◎ 電信級アマなども国家試験センターに委嘱

郵政省、60年1月から実施の方針

◎ “モールス練習用”電波、一般アマチュア局も発射OK

(A1又はA2電波の発射が許されていれば、JARLと同様の目的で)

社団法人 日本アマチュア無線連盟

香川クラブ報

発行責任者 JA5AHM 天野 英 弘

編集者 JA5IQP 合田口 正 春

" JA5OIB 合田口 キヨ子

連絡事務所 高松市中新町

(〒760) 天野 英弘 方

(TEL) 高松

郵便振替口座 徳島48758 JARL香川クラブ